

展示室 1 イギリスの風景画



J.M.W. ターナー  
『カンバーランド州の  
コールダー・ブリッジ』

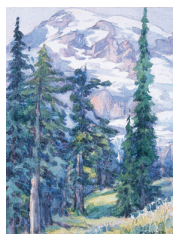
ターナーが描くまでロンドンには霧がなかった、と言ったのは、詩人オスカー・ワイルドでした。この言葉は、私たちの眼がいかにか習慣によってでしか物を見ていないことを教えてくれます。風景画を見る楽しみは、何気なく見過ごしてしまいがちな自然の本質や美しさを私たちに見せてくれるところにあるのかもしれない。

自然の画家、コンスタブルは少年時代から過ごしていた故郷の風景を、愛情を持って繰り返し描きました。一方、同じ風景画家ターナーは、田園に囲まれたイギリス人にとっては見たことのない風景を求めて、スイスのアルプスなど外国にも旅に出ました。

ひとえに風景画といっても、その絵に込められた画家の想いはさまざまです。画家の想いを感じながらじっくりとご鑑賞ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォア地方、サランシュ附近のアルプス渓谷		水彩・紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745 - 46 頃	油彩・キャンバス
J.M.W. ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
J.M.W. ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホワイトボディカラー・紙
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807 頃	油彩・キャンバス
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815 頃	油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の街並	1890	水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
サー・フランク・ブランギン	ヴェニス・運河	1924	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868 - 84	油彩・キャンバス

展示室 2 日本近代洋画一二つの潮流



吉田ふじを  
『レニヤ山』

明治の中頃、日本の洋画界には従来からのヨーロッパの伝統的な作風と黒田清輝がもたらした外光派風の明るい作風との二つの潮流が生じました。後者には黒田をはじめ和田英作、白滝幾之助などがいて白馬会という団体に活躍、当時のジャーナリズムからは「新派」とか「紫派」と呼ばれ、洋画壇の主流となりました。対して前者は「旧派」「脂派」と呼ばれながらも、吉田博や中川八郎らが結成した太平洋画会の画家たちを中心ににおおいに気を吐きました。今回の展示では、この二つの潮流の対比をご覧いただきます。

また、6～7月に開催する企画展「吉田博展」にあわせ、吉田博の周辺にいた画家たち、特に彼が修業時代を送った画塾「不同舎」の画家たちの鉛筆写生や水彩画のコーナーを設けました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
高橋由一	風景（鳥海山）	1880 代	油彩・キャンバス
百武兼行	風車のある風景	1877（明治 10）	油彩・キャンバス
原 撫松	霧の広場	1906（明治 39）	油彩・キャンバス
広瀬孝次	田園景色	1890（明治 23）	油彩・キャンバス
黒田清輝	東久世伯爵肖像エスキース	1894（明治 27）	油彩・キャンバス

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山本芳翠	園田銚像	1885 (明治 18)	油彩・キャンバス
白滝幾之助	編物をする少女	1895 (明治 28)	油彩・キャンバス
和田英作	上総風景	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス
小林万吾	朽葉の袖	1907 (明治 40)	油彩・キャンバス
山本森之助	冬の磐梯山	1918 (大正 7)	油彩・キャンバス
中沢弘光	風景 (海)	1921 (大正 10)	油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893 (明治 26)	油彩・紙、板
高村真夫	風景	1903 (明治 26)	油彩・キャンバス
石川寅治	房総風景	1923～4 (大正 12～3)	油彩・キャンバス
満谷国四郎	冬	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス
大下藤次郎	蓮池		水彩・紙
五姓田芳柳 (二世)	月の瀬・奥の谷		水彩・紙
丸山晚霞	少女のいる風景、春		水彩・紙
小山正太郎	庚申山、山寺	1884 (明治 17) 頃	鉛筆・紙
鹿子木孟郎	綾瀬 (スケッチ)	1893 (明治 26)	鉛筆・紙
河合新蔵	凌霄花 (ノウゼンカズラ) のある宿場		水彩・紙
中川八郎	早春		水彩・紙
小杉未醒	日光東照宮図		水彩・紙
吉田ふじを	土間	1906 (明治 39)	水彩・紙
吉田ふじを	フロリダ	1906 (明治 39)	水彩・紙
吉田ふじを	レニヤ山		水彩・紙 (有)ヒノギャラリー寄贈

### 展示室 3 秋山泰計おもしろワールド



『朝の牛市』

白黒の反転と交錯する輪郭を駆使した画面構成によって、ユーモアとアイロニー漂う独自の表現世界を確立した版画家・秋山泰計。初期の作品〈ひとり十人〉や忙しく働く大工を下から見上げた〈大工A〉には、すでにユニークな視点が認められます。その後版画の白黒反転した色面によってかたちを描き出し、それぞれのかたちが相互に入り組んで集団を作り出す画面で、身近な風景を描いた〈朝の牛市〉や〈街の魚屋〉などの作品、さらに生命体の集積のような〈Casa de Zoomorphismo〉や〈夢幻〉などの力強い作品を生み出しました。

1970年代以降は「おびからくり」と名づけた紙の造形作品を考案し、造形デザイナーとしても活躍しました。秋山泰計オリジナルな創造世界をお楽しみください。

作品名	制作年	技法・材質
ひとり十人	1961 (昭和 36)	木版・紙
大工 A	1963 (昭和 38)	木版・紙
魚干し	1963 (昭和 38) 頃	木版・紙
春宵	1968 (昭和 43)	木版・紙
仮面	1972 (昭和 47)	木版・紙
同行二人	1970 (昭和 45)	木版・紙
同行二人	1970 (昭和 45)	木版・紙
同行二人 (バリエーション)	1970 (昭和 45)	木版・紙
母子像	1973 (昭和 48)	木版・紙
母子像 (バリエーション)	1973 (昭和 48)	フロッタージュ・紙
Venus (ヴィーナス) 誕生	1983 (昭和 58)	木版・紙
筋のない話	1969 (昭和 44)	木版・紙
筋のない話 (B)	1974 (昭和 49)	木版・紙 / 二曲一隻屏風
筋のない話 (C)	1974 (昭和 49)	木版・紙 / 二曲一隻屏風
朝の牛市	1984 (昭和 59)	木版・紙
街の魚屋	1985 (昭和 60)	木版・紙
Casa de Zoomorphismo	1985 (昭和 60)	木版・紙
夢幻	1985 (昭和 60)	木版・紙

作品名	制作年	技法・材質
おびからくり (少女⇔サルの親子)		紙、布 三木多聞氏寄贈
おびからくり (キジ⇔キツネ)		紙、布 田口安男氏寄贈
おびからくり (スイカ⇔ヘビ)		紙、布 田口安男氏寄贈
おびからくり (ウマ⇔黒カバン)		紙、布 田口安男氏寄贈

## 展示室 4 木版画の魅力



吉田穂高  
『私のコレクションより  
一白い家、N』

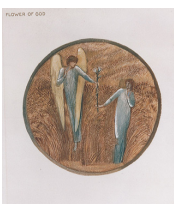
日本人にとって、木版画はなじみの深い技法のひとつではないでしょうか。江戸時代の浮世絵は、絵を描き、版を彫り、紙に摺るという作業をそれぞれ分担して行っていました。それが明治・大正期になると、すべての作業を一貫して一人で手がける作家が登場し、木版画の制作は一般の人々にまで広がっていくことになったのです。

多様化する技法の中で、木を彫り、紙に摺ることによって表現する木版画は、独特の味わいがあり、あたたかさを感じさせます。紙に直接描くことでは表現できない木版画ならではの魅力をお楽しみください。

今回は、6～7月開催の企画展「吉田博展」にあわせ、吉田博とその次男、吉田穂高の作品を中心に紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
南 薫造	浦の漁灯	1913 (大正 2)	木版・紙
川上澄生	夜の銀座	1929 (昭和 4)	木版・紙
恩地孝四郎	Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル“道化師の朝歌”	1933 (昭和 8)	木版・紙
川西 英	『サーカス』(版画荘)	1934 (昭和 9)	木版・紙/本
川西 英	『書窓版画帖十連聚其二 港都情景』(アオイ書房)	1941 (昭和 16)	木版・紙/本
川上澄生	『書窓版画帖十連聚其三 文明開化往来』(アオイ書房)	1941 (昭和 16)	木版・紙/本
前川千帆	『書窓版画帖十連聚其四 新野外小品』(アオイ書房)	1942 (昭和 17)	木版・紙/本
逸見 享	『書窓版画帖十連聚其七 水韻譜』(アオイ書房)	1942 (昭和 17)	木版・紙/本
斎藤 清	蔭苅る乙女	1946 (昭和 21)	木版・紙
斎藤 清	漁村の女	1946 (昭和 21)	木版・紙
斎藤 清	作品		木版・紙
福田利秋	静物	1960 (昭和 35)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田利秋	磐梯山	1980 (昭和 55)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
吉田 博	せと奈いかい高浜港	1928 (昭和 3)	木版・紙
吉田 博	神の島	1930 (昭和 5)	木版・紙
吉田穂高	野宴	1959 (昭和 34)	木版・紙
吉田穂高	昼の国々	1966 (昭和 41)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	ミニ・ランドスケープス	1972 (昭和 47)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより一白い家、N	1979 (昭和 54)	木版・紙
吉田穂高	私のコレクションより一坂道の家、P. M.	1982 (昭和 57)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより一白の壁	1992 (平成 4)	木版、亜鉛凸版・紙
吉田穂高	私のコレクションより一錆色の壁	1992 (平成 4)	木版、亜鉛凸版・紙

## 展示室 4 信仰と形



バーン=ジョーンズ  
『フラワー・ブック』より「神の花」

展示された作品を鑑賞するうえで、より深く理解するヒントとなるのが信仰を示す形です。例えば、キリスト教でリングといえば禁断の果実、葡萄酒はキリストの血、そして羊は人類の罪を背負ったキリスト自身（あるいは、羊は信徒で羊飼いはそれを導くキリスト）、という意味があります。仏教では、郡山市出身のガラス工芸作家、佐藤潤四郎が数多く制作した仏足跡は釈迦の足跡で、舍利器は釈迦や聖人の骨（舍利）を入れる器のことです。

今回は、このように宗教的な主題を扱った作品をご紹介します。作者の信仰を知ること、作品をより身近に感じることができるでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より 白い庭 神の花 ベツレヘムの星 旅人の喜び 淋しい木陰 黄金の挨拶 家へようこそ	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
ジョン・リネル	正午 (真昼の羊)	1818	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	クリスマス (最後の羊を囲う)	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	眠る羊飼ひ: 早朝	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	囲いを開く (早朝)	1880	エッチング・紙
フレデリック・ランシーア・グリッグス	聖イポリツ	1927	エッチング・紙
ジョゼフ・ウェップ	林檎の並木道	1938	エッチング・紙
エリック・ギル	聖ルカ	1922	木口木版・紙
エリック・ギル	イエズス会の殉教者	1923	木口木版・紙
エリック・ギル	ゲッセマネの園におけるキリストの苦悶	1926	木口木版・紙
エリック・ギル	磔刑	1931	木口木版・紙
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利器 (試作)	1978 (昭和 53)	ガラス/宙吹・グラヴェール
佐藤潤四郎	舍利器 (西塔型バリエーション)		ガラス/宙吹・エッチング、グラヴェール
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利小容器 (試作)		ガラス/宙吹・ブランツ
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー (控) No.1	1984 (昭和 59)	ガラス/宙吹・ブランツ、雲母封入
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器 (控) No.1	1980 (昭和 55)	ガラス/宙吹・カット
佐藤潤四郎	舍利器 (玄奘三蔵院型バリエーション)		ガラス/宙吹・カット
佐藤潤四郎	舍利器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット融着
佐藤潤四郎	舍利器		ガラス/宙吹・気泡封入、ブランツ
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡 1		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡 2		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・仏足跡と五輪塔		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹・サンドブラスト 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984 (昭和 59) 頃	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト 佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984 (昭和 59)	ガラス/エッチング、サンドブラスト
斎藤 清	弥勒	1948 (昭和 23)	木版・紙
佐藤静司	弥勒菩薩像	1978 (昭和 53)	ブロンズ 太田緑子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 2		陶器 大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石 大方竜子氏寄贈

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
● 1 階			
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963 (昭和 38)	セメント 細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
● 2 階展示ロビー			
清水多嘉示	フランスの女	1926 (昭和元)	ブロンズ
柳原義達	女の首	1958 (昭和 33)	ブロンズ
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ 大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917 (大正 6)	大理石
三坂耿一郎	女童 (めわらべ)	1974 (昭和 49)	ブロンズ
● 前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ